

行政の垣根を超えた

「オール種子島」による島づくり

地域人材が能力を発揮できる交流型プラットフォオムの提供

種子島大学実行委員会事務局長 小早 太



種子島：鹿児島市の南方115km、大隈半島南端から約40kmにある島。面積444.30km²、周囲169.6km、人口28,387人(令和2年6月末日現在)。ポルトガル人による鉄砲伝来や、宇宙センター基地の島として知られる。サーフポイントが多く点在。サーフィンの聖地としてプロの大会も開催される。

《団体名》 種子島大学実行委員会（鹿児島県南種子町）
《事業名》 地域資源活用人材育成事業「種子島大学」

種子島大学の設立

鹿児島県種子島は一市二町で構成されています。一五年前に移住した私は、住居のある南種子町だけではなく、島全域の地域活性化事業に関わってきました。そのなかで、優秀な地域人材がいるのに、その能力を十分に発揮できる現場が少ないと感じていました。既存の広域事業では、自治体ごとに取り組みに対する温度差があり、住民が同

じ熱量や目線で事業に向き合えない面がありました。また、お互いに行政区の壁を意識してしまい、一体感を失うことも珍しくありませんでした。

そこで私は、種子島全域の住民がプラットな関係で連携できる体制を、民間主体で構築していこうと、新たなプラットフォーム「種子島大学実行委員会（以下、種子島大学）」を平成三〇年に設立しました。種子島大学は、種子島でより楽しく幸せに過せるよう島の魅

力を再発見することを理念に「住民の主体性」と「広域連携」を重視した運営を行なっています。

スタッフは、基本的にボランティアであるため、自ら考え行動することでモチベーションを確保・維持する「主体性の確保による内発的動機づけ」を大切にしています。

また、種子島大学には校舎がありません。これは自治体の枠にとらわれることなく、島全体をフィールドに、そこに住む人々をスタッフや受講生として「オール種子島」の旗印の下に活動していきたいからです。

地域資源の再発見につながる各講座

種子島大学では種子島の地域資源を学ぶ講義を年間一七講座開講しています。テーマは、島の自然・文化・歴史・産業・食・芸術など多岐にわたり、講師として島内外の各分野に秀でた方々をお招きしています。平成三〇年度と令和元年度に離島人材育成基金助成事業を活用し、種子島大学のホームページの作成や講師の招集を行いました。

人気の高い講座のひとつに宇宙航空研究開発機構（JAXA）と連携した「宇宙講座」があります。種子島宇宙セン



種子島宇宙センターのロケット射場を見学する受講生たち。

ターの歴史やロケットの技術を解説していただき、普段は関係者しか入れない専用のロケット射場などの施設を見学するもので、四〇名の受講生をはじめ、スタッフの満足度も非常に高い講座となりました。

また、昨年度に開講した「お茶講座」では、生

産者組合と鹿児島県熊本支庁の皆さんを講師に、種子島のお茶の歴史や茶葉の栽培・収穫方法を説明していただいた上で、荒茶工場の見学や

お茶の淹れ方などを学びました。一五名の受講生は、種子島が県の近代茶業発祥の地であることを知り、地域の魅力を再確認できたと同時に、郷土愛も深まったことだと思えます。この講座の開講に際しては、組合の皆さんに農作業のスケジ



令和元年開講の「意外と知らない種子島茶の世界」では、お茶農家「松寿園」さんから収穫方法を学んだ。

ユールを調整していただくなど、人や労力がかかりました。毎年の実施は難しいため、今後は隔年で開講していきたいと考えています。

なお本講座は、終了後、お茶の産地として種子島の認知度を向上させるため、地域資源を活用する民間支援プロジェクトに発展しました。これは、島でのみ栽培される極早生希少種茶葉「松寿」をPRし、種子島茶の消費拡大を促進するもので、一一年の歴史を持つお茶農家「松寿園」と、平成二九年に誕生したクラフトビール醸造



おいしいお茶の淹れ方に挑戦する受講生。

所「ブルワリーからはな」、種子島大
学が連携して地ビールの企画・製造・
販売を進めたものです。

クラウドファンディングで活動資金を
募り、目標額を上回る三万八〇〇〇
円が集まりました。新商品「種子島に
しかない稀少種松寿使用・日本一は
やい新茶のクラフトビール」が完成し
た際には、生産者と消費者をオンライ
ンでつなげるイベントを開催し、皆で祝
福しました。ITの活用には島の地理
的ハンディを克服できる可能性を感じ
ています。



新商品「種子島にしかない稀少種松寿使用・日本一はやい新茶のクラフトビール」。ラベルデザインは人気投票で決定。

地域人材が能力を發揮し、 持続可能な事業モデルの確立を

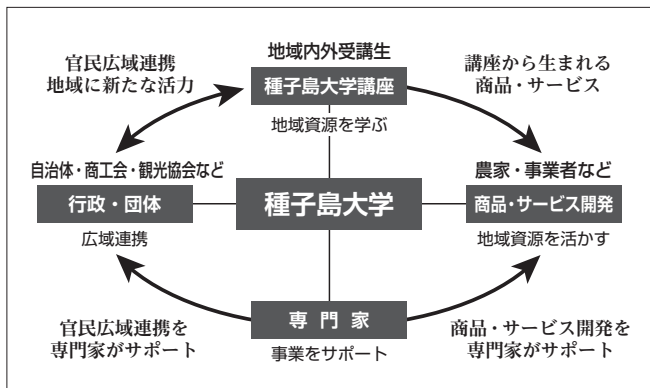
昨年の初めごろより、専門家の方々
から助言をいただける機会が増えまし

た。一例をあげると、経済産業省主催
「ふるさとデザインアカデミー」に私
が参加し、地域内外の人材交流や仲間
づくりについてのワークショップを受
講、専門家の助言を参考に、島で自治
体・商工会・観光協会・議員などに對
して人材交流ネットワークの構築につ
いてのプレゼンを行いました。

このほか昨年は、駒沢女子大学の鮫
島卓准教授などを招き、「種子島観光
プロモーションシンポジウム」を開催
するなど新しいことにも挑戦しました。
種子島大学の運営に費やす時間は増え
ましたが、地域人材が活躍できる組織
体制の強化に向けスタッフ一同頑張っ
ています。

種子島大学は、地域内外・広域人材
交流プラットフォームとして少しずつ
成長しています。徐々にはありません
が、広域で取り組む方が望ましいと思
われる各自治体の事業について、私た
ちが広域展開に向けた役割を担うこと
も増えています。まだ設立三年目では
ありますが、リーダーシップや企画力

■地域内外の人材交流ネットワーク



を持つ方々が活躍する機会も多くなり
ました。今後も「地域人材が個々の能
力を發揮できる体制」で、持続可能な
事業モデルの確立を目指していきます。
種子島大学設立の初年度から人材育
成基金を活用できたことは、順調な事

離島人材育成基金助成事業事務局より

種子島大学実行委員会の活動は、民間の主導で、種子島の1市2町の人材が協力し合いながら実践している点に大きな特徴があります。離島人材育成基金助成事業事務局では、本事例のように島内が一体となって事業に取り組んでいただくことを望んでいますが、行政区画の違いや住民の意識の壁などから、それが実現するケースはあまり多くありません。

本財団では、平成30年度と令和元年度の2年間にわたり、種子島大学に対して助成をさせていただきました。1年目は、自然や文化など多角的な視点から島を学ぶ「たねがしま楽科」と、JAXAのロケット打ち上げ基地が立地する特性に着目し、星空を学ぶ「星空ガイド楽科」の2つの楽科(学科)を設置、複数の講座を開講し、住民の皆さんに地元の価値を見直してもらいました。2年目は、多様な文化を受け入れ発展させてきた島の先人の知恵や理念を「種子島DNA」と名づけ、これを軸とした地域内外・広域人材交流プラットフォームづくりに取り組まれました。このほか、経済産業省主催の「ふるさとデザインアカデミー」で広域連携のための体制づくりを学び、専門家を招いての「種子島観光プロモーションシンポジウム」を開催、島の進むべき観光の方針を示すなど、事業をステップアップさせてきています。

種子島大学は、自治体の協力を得ながらもその枠にとらわれることなく、住民が主体となり、公民連携による島ぐるみでの地域づくりを実践している点、初年度の成果を翌年度の事業に生かし、活動の幅を拡大させた点など、他の地域も参考にしてほしい事例です。

小早 太 (にはやふとし)

1972年、大阪府生まれ。デザイン事務所「合同会社マイマイ企画」代表。2005年、大阪から南種子町に移住し、数々のまちおこし事業に参画。グラフィックデザイナーとして地域デザインやコミュニティーデザインを手がける。



業展開ができてきている大きな要因です。資金面はもちろん、助成を受けたことで事業をやり抜く責任を意識することができました。

今も手探り状態ですが、専門家の助言などを参考に、自立した事業運営に挑戦していきます。そして、住民や島

を愛する人たちとともに、島のヒト・モノ・コトを紡ぎながら種子島の未来をカタチづくる種子を撒いていきたいと思っています。

今後の構想として、さまざまな島にプラットフォームである「離島大学」を設立し、連携していければと考えて

います。コロナの情勢下で定着したオンラインによるコミュニケーションを活用し、全国の離島大学と国内外の受産品販売促進など地域経済に波及する取り組みを「離島大学連合」として挑戦していきたいと思っています。